

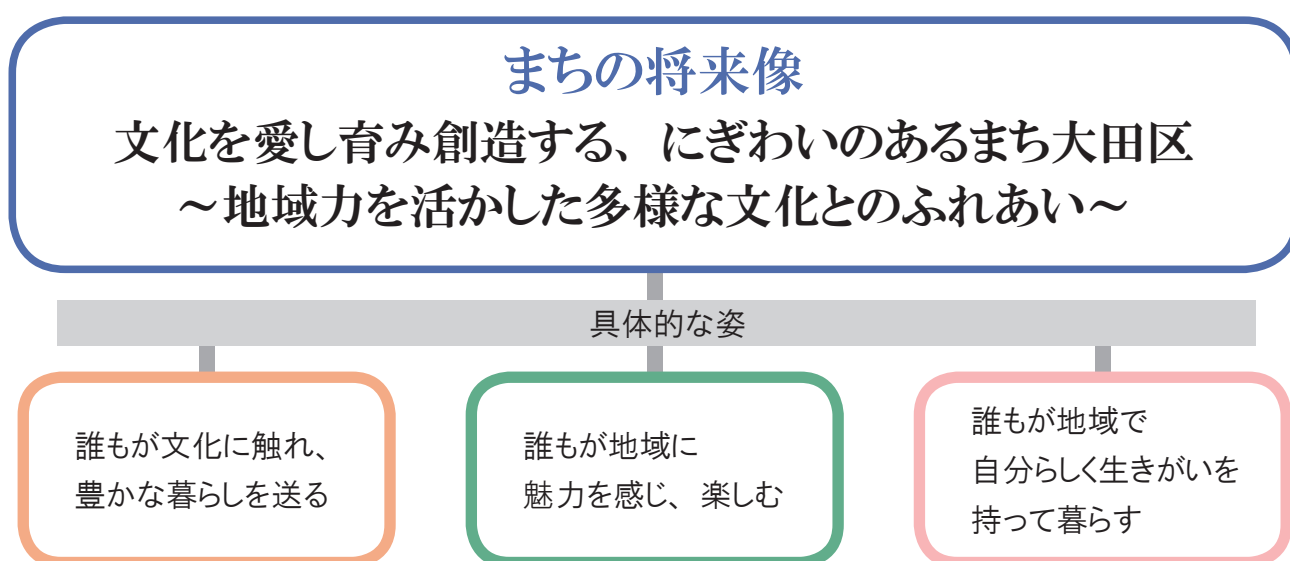
第3章 施策の体系

まちの将来像

大田区の文化振興は、前プランより「文化を愛し育み創造する、にぎわいのあるまち大田区～地域力を活かした多様な文化とのふれあい～」というまちの将来像を目指してきました。

このまちの将来像は、この間の社会情勢の変化、そして文化振興の発展を考え合わせてもなお、目指すべき将来像として有効なものと考えられます。そこで、本プランでも、このまちの将来像を継続することとします。

そして、その将来像の実現化を図るため、「誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送る」、「誰もが地域に魅力を感じ、楽しむ」、「誰もが地域で自分らしく生きがいを持って暮らす」という3つの具体的な姿を設定します。



(1) 誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送る

文化を楽しむことは暮らしに心豊かな時間をもたらしてくれます。さらに文化は創造性や想像力に働きかけ、よりよく生きようとする意欲を育み、自分が望む人生を歩んでいくことへとつながるものです。

大田区民の事情も様々で、リタイアして時間のある人もいれば、仕事や育児などであまり余裕のない日々を過ごしている人もいます。時間的に十分余裕のある人はもとより、むしろ忙しく暮らしている人にこそ、文化に触れるきっかけを提供することで、心豊かな時間を過ごしてもらうことが大切です。

植物は根から地中の栄養を吸収し、茎を通じて細部にまで行き渡らせることで育ち、花を咲かせ、実を結びます。文化の過程もまさにこれと同じで、区民の皆様が地域の文化資源を知り、活用し、文化活動を展開できることが必要です。改めて、誰もが文化に触れることのできる環境づくりを行っていきます。

(2) 誰もが地域に魅力を感じ、楽しむ

大田区においては過去から現在に至るまで、多様な文化が生み出されてきました。区を発展させてきた創造性は、区のアイデンティティといえます。

日々の暮らしのなかでは、身近なまちの歴史や魅力的な文化に気づかないことが少なくありません。地域の文化に触れることは、その文化を育んできた創造性に触れることであり、自分の住むまちを感じるきっかけにもなります。アンケート調査の中で、地域とのかかわりを「寝に帰るだけ」と答えた方もいましたが、そのような方こそ地域文化に触れ、自分の住む地域に関心を持つことで新たな発見が生まれ、地域での暮らしを楽しむことができます。

そのような中で地域への愛着や誇りが育まれていくことが、文化を愛し育み創造するための重要な要素となります。そのために、地域の魅力を再発見し、地域文化を楽しむ人を増やしていきます。

(3) 誰もが地域で自分らしく生きがいを持って暮らす

文化を楽しむことは関心をともにする人々の間に共感が生まれ、人と人とのつながりが育まれていきます。そしてさらに共感の輪が広がり、深化していくことでコミュニティが形成され、まちににぎわいが醸成されていきます。

このように文化を通じて人や地域とつながるなかで、徐々に地域への参加・参画が促され、自分の居場所や生きがいを感じ、自己実現を図ることができていくと考えられます。また、文化がもたらす「にぎわい」には2つの要素があり、ひとつには多くの人々が地域にかかわることで醸し出されるものです。2つ目の「にぎわい」は、文化を通じて多くの人々が交流し、その交流が様々な波及効果を生み出すことで、まちが活性化していくことにもつながります。大田区の文化を介したコミュニティの輪を区内から区外へと広めていき、関心をもつ人々を広く引き寄せ、様々な人々が交流していくことを通じて、福祉、観光、産業分野へのより良い効果が生み出されていくこととなります。

誰もが地域とつながりを持ち、自分らしく生きがいを持って暮らし、さらにまちづくりへと発展することを目指し、2つの「にぎわい」を創出していきます。

基本目標

まちの将来像の実現に向けて、3つの具体的な姿に対応させるかたちで、本プランの計画期間における目標を次のように掲げます。

基本目標1 区民・団体の自主的な文化活動を支援する

誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送るために—
身近に文化を鑑賞することができ、また創造的な活動が充実したものとなるよう、
鑑賞及び活動に対する支援を行っていきます。

区民の文化・芸術に関する関心は高いものがありますが、関心を持ちながらも鑑賞していない区民が少なくありません。また、区民や団体の活動支援にも課題を残しています。

そのような現状を踏まえ、鑑賞ならびに創造的な活動がより活性化するため、文化に触れる機会を充実させていくとともに、年齢や障がいの有無にかかわらず文化に接することができるような環境整備を進めていきます。さらには区民や団体活動に対する相談機能やコーディネート機能を発揮できる体制整備を進め、支援の充実を図ることで、現在、そして将来の文化の担い手を育てていきます。

それによって、文化施設などで行われる事業や区内の文化的なイベントを鑑賞・体験・参加する区民を増やすとともに、区内で活動する区民や団体が活性化し、誰もが文化に触れ、豊かな暮らしを送れるようになることを目指します。

基本目標1に関する主な課題

■情報発信の強化

平成29(2017)年度に実施したアンケート調査では、文化・芸術を鑑賞したいと思いつつも、していない区民が少なからずおり、時間的制約のほかには情報が少ないという理由が多く見られました。また、文化に関心がないと答えた区民もいました。それらの状況を踏まえると、鑑賞機会を周知し、行動を促すための情報発信とともに、文化・芸術に関心がない方にも興味を持ってもらえるような取り組みが必要です。

■文化活動を支援する体制の確立

アンケート調査では、区による助成事業などの支援が活動団体に十分に認知されていないことが分かりました。大田区における文化振興の担い手である団体の活動をより活性化するためには、既存の支援施策に対する認知を向上させるとともに、活動における困り事の相談やより発展させていくためのコーディネートなど、区や公益財団法人大田区文化振興協会（以下、「文化振興協会」という）が団体の活動を支援する体制を整備していく必要があります。

■子どもが文化に触れる機会のより一層の充実

アンケート調査では、区および文化振興協会に対して、子どもが文化・芸術に触れる機会を拡大することを求める意見・要望が多く寄せられました。現在、子どもが文化・芸術に触れる機会としては、子ども達に文化を届けるアウトリーチ事業などを行っていますが、区民ニーズも踏まえ、より一層充実させていくことが必要です。そうすることで将来の文化活動の担い手となる子ども達を育成していきます。

基本目標2 区民とともに文化をつくり、発信する

誰もが地域に魅力を感じ、楽しむために—
地域の文化に触れ、創造性を培ってきたまちという特徴を共有し、
新たな大田区の文化を区民とともに作り、発信していきます。

大田区には、まちを発展させてきた創造性の表れともいえる多様な文化資源があります。これまで郷土博物館や大田区ゆかりの芸術家・作家の記念館での事業など、大田区で生み出され、継承されてきた文化を発信し、魅力を伝えてきました。ただ、その魅力は全ての区民に共有されているとはいえず、また発信にあたって文化の背景にある創造性というストーリーを十分に伝えられているとはいえません。

そのような現状を踏まえ、地域文化の魅力を最大限引き出し、それらが生み出された時代的・社会的背景や創造性が生まれてきた理由にも触れられるようにしながら、そのストーリーを多くの区民に向けて発信していきます。同時に、現在進行形で生み出されていく文化にも目を向け、区民とともに「これからの大田区の文化」として育み、未来へとつないでいくことにも取り組みます。

また、東京 2020 大会を、多様性のあるまちへと変化していく絶好の契機と捉えながら、多くの区民が地域文化に触れ、その魅力を感じることで、地域への愛着や誇りを醸成します。

基本目標2に関する主な課題

■幅広い主体との連携や新たな地域文化の発信

これまでは地域文化に関する取り組みとして、大田区ゆかりの作家・美術家、また地域で伝承されてきた伝統文化や伝統工芸を発信してきました。一方で、そうした文化資源以外にも、大田区では現在進行形で多様な文化が生み出されています。「これからの大田区の文化」をつくっていくためには、幅広い分野の主体と連携を図り、新たな地域文化を発信していく必要があります。

■伝統文化の発信のさらなる充実

平成 29 (2017) 年に伝統工芸士の認定制度を発足させ、伝統文化の発信を充実してきました。しかし、アンケート調査では、地域の文化の保存・継承・発信について充実していると思う区民が少ないことから、より一層、事業内容とその広報の充実が求められます。そのためにも郷土博物館や各種記念館を中心に行われている文化財や伝統工芸等の保存・継承・展示に関する施策と連携させながら、伝統文化の発信のさらなる充実に取り組む必要があります。

■文化のレガシー創出

スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック競技大会は、障がいの有無や人種・国籍の違いを超え、文化の力で個々人の可能性を拓き、大田区が多様性のあるまちへと変化していく絶好の機会となります。この考えの下、区民に向けては、大田区の文化を再認識してもらう契機とし、また、国内外から訪れる多くの来訪者に向け、大田区の文化を紹介し、その魅力をアピールしていきます。

基本目標

基本目標3 文化によるまちづくりを推進する

誰もが地域で自分らしく生きがいを持って暮らすために—
文化を通じたつながりを区内外へと広げ、コミュニティを形成しながら、
文化振興を通じたまちづくりを進めていきます。

大田区は自治会・町会への加入率が高く、地域のつながりが強いことが特徴でしたが、近年ではその加入率が下がってきています。そのなかで自治会・町会では様々な取り組みが行われているものの、役員の高齢化、新たな加入者の減少、さらに近所付き合いを煩わしいと感じる方もいる中、地縁によるつながりだけで地域コミュニティを維持していくことは難しくなってきていると思われれます。

そこで、人と人をつなぐことや、まちの魅力となって人を惹きつけるという文化の効果に着目し、地域文化を通じて人と人が交流し、つながりを生み出していくことにも取り組んでいきます。それによって、社会への参加・参画を促し、文化に対する関心を介した複層的なコミュニティの形成を目指します。

それとともに、そのつながりを区外へと広げていくことで広域的なコミュニティを形成し、多くの人々を大田区に惹きつけることで、文化振興を産業の活性化、観光振興などへとつなげていきます。

基本目標3に関する主な課題

■文化を介した多様なコミュニティの形成

隔年で実施する「大田区政に関する世論調査」では、自治会・町会活動に参加したことのある人は2割程度にとどまっています。若い世代ほど活動への参加が少なく、地域のお祭りや行事にも参加しない層が一定の割合でいて、地域との関わり方は希薄化する傾向にあります。また、今後外国人区民が増えることが予想されており、様々な暮らし方や価値観を持った区民が地域に共存することとなります。そのような状況を踏まえると、地縁だけではなく文化を通じてつながるコミュニティを形成していく必要があります。

■施設間の回遊を促す魅力づくり

大田区の文化の魅力を広く伝えるためには、区内外から多くの人々に郷土博物館や各種記念館等を訪れてもらうことが大切です。そのためには、個々の施設が有する作品の魅力を周知することはもとより、共通のテーマでの展示を行うなどソフト面でも連携して取り組み、施設間の回遊性を高めていくことが必要です。



勝海舟記念館完成予想図



勝海舟記念館 1階のイメージ図

施策体系図

まちの将来像の具体的な姿に対応した3つの基本目標に基づき、次の施策体系の下で施策を推進していきます。
 なお、各目標にて示した課題を踏まえ、特に取り組むべき施策を重点施策として位置づけています。

